

年賀状発売開始に合わせて 村の広告付き年賀状をPR



セレモニーに招かれた菅野村長。年賀状を購入した人に記念品を手渡し日頃の感謝も伝えました

11月1日、来年のお年玉付き年賀ハガキが全国一斉に発売となり、村のメッセージ広告付き年賀ハガキも、県北・相双地域の郵便局で、販売がスタートしました。福島中央郵便局の販売開始セレモニーには、菅野村長が招かれ、先着50人の購入者に、村産イチゴを使った紅茶のティーバッグをプレゼントしました。村の年賀ハガキは、支援への感謝と復興に向けた思いをこめたデザインで、定価より5円安い1枚47円。限定30万枚を、好評発売中です。P21の関連記事もご覧ください。

森林組合などから道の駅へ 県産材の木製品を寄贈



木製品をお披露目する(左から)佐藤組合長・菅野村長・秋元会長・船本勝農林中央金庫福島支店長

11月2日、「いいいて村の道の駅までい館」に、県産材を活用した木製品の寄贈がありました。この寄贈は、農林中央金庫が中心となって実施している復興支援プログラムによるもので、村森林組合(佐藤長平組合長)、県森林組合連合会(秋元公夫会長)が、同金庫と連携して行いました。寄贈されたのは、県産材を使った木製ベンチ10台とパンフレットスタンド2台。どちらも美しい木目を生かしたデザインで、木をふんだんに使った道の駅の雰囲気にもマッチしていました。

ヨガ教室は大好評 基本の呼吸から学びました



ヨガマットの上で、姿勢と呼吸を意識しながらポーズを作っていきます。写真は11日のようす

11月11日と25日の2回にわたり、交流センター「ふれ愛館」で、村主催の「ヨガ教室」が開かれました。ヨガインストラクターの千葉留美子さんを講師に迎え、9人の女性が受講しました。教室では基本の呼吸を教わり、インストラクターに合わせて動いていきます。無理せず自分の体と相談しながら動くことが大切なのだそう。肩こりを改善する動きなどでは「楽になった」と喜びの声も。いきいきとした表情で、ヨガの心地よさを体験した皆さん。「今後も続けてほしいなあ」と話していました。

避難先の友情の証 そっくりの彫像にびっくり!

福島市成川の信夫雇用促進住宅に避難していた大久保岩男さん(宮内)。住宅に近い手作りの公園を、避難者らの交流に提供していた矢吹武さんと知り合いました。「大変お世話になりました。毎日のラジオ体操に始まり、春は花見、夏は盆踊りと交流の機会をいただきました」と大久保さんは振り返ります。家族と共に相馬市に転居することになった大久保さんをモデルに、矢吹さんは、趣味の彫刻で頭像を製作。惜別の手紙を添えて、大久保さんに贈ってくださったそうです。



激似の頭像と大久保さん。「体調が許せば帰村して、いただいた作品も、再建する自宅に飾りたい」

松塚地区の太陽光発電所が いよいよ竣工となりました

10月24日、松塚地区で、「F飯館太陽光発電所」の竣工式が行われました。この発電所は、株式会社NTTファシリティーズが地区と契約して建設・運用するもので、村内最大規模です。式には一法師淳社長ら同社の関係者、高橋文男区長や地権者などが出席しました。一法師社長は「農地を保全しクリーンエネルギーを拡大する意義ある事業」と竣工を喜び、菅野村長も「収益の一部を村の基金に入れていただく。農業振興はじめ復興事業に活用したい」と期待を寄せました。



発電所前でテープカットに臨む関係者。右より3人目から、一法師社長・菅野村長・高橋区長

東北電力から「きこり」に 花いっぱいプレゼント

東北電力福島営業所(渡辺隆夫所長)の皆さんが、宿泊体験館「きこり」で、パンジーやビオラ約800株を植えてくださいました。これは同所による「いいいて村おかえりなさいプロジェクト」の一環です。「何かできることは皆で考えながらやっています」と渡辺所長。飯館分署と連携し高齢者宅の電気設備の点検なども行っていただいています。「きこり」の佐藤峯夫支配人は、手際の良い作業ぶりに感心し、「震災前も花があふれていた場所。ありがたい」と感謝を伝えていました。



所員25人で1株ずつプランターへ移植。設置や清掃までいいいてに行っていました